



いまいき和歌山がんサポート理事長 谷野裕一

がんになっても いきいきと!

⑨6 医療向上を目指す臨床試験

私の異動の報告です。1月から和歌山医大の臨床研究センター、副センター長になります。臨床研究センターとは、臨床試験をサポートする部署です。乳がん診療も少ししますが、8割は臨床試験の仕事になります。臨床試験と聞いても難しいですよ。どんなものでも、体にも、効果があるの

初めての人にはすぐくやりにくいですが。どんな人を対象に試験をするのか、参加者の安全はどう担保するのか、何とどう比較して効果がある、安全だと考えるのか、何人の人にすれば必要十分なのか、試験計画書、同意説明文書、国の機関への登録など難し

いことがたくさんあります。これまで全部自分でやってきたトリプルネガティブ乳がんの臨床試験の経験が役に立ちます。しかし、臨床研究センターにいろいろ聞きながらやってきたので、逆に試験実施側から気付く問題点がたくさんあります。ユーザー目線

で利用しやすい臨床研究センターになれば、和歌山の臨床試験がたくさん増えて、良い医療を全国に届けられるようになると思います。臨床試験が活発になることの利点は他にもあります。臨床試験のことをよく知っている先生は治療にも詳しいです。既存の治療でうまくいかなかった場合に治療を受けたかと思っても情報入手が難しいのです。そんなときに臨床試験に精通した先生が和歌山に

気温が急に低くなりました。でも、風邪の人はいませんよね。風邪ってやっぱり誰かからうつっていったのでしょね。本格的に寒くなる前に、しっかり運動をしておきましょう。

例えば、電気メスはテレビでよく見ますよね。傷はきちんと治るのか、出血などの危険がないのかを確認してから認可されます。抗がん剤や、その他の薬も効果と副作用が臨床試験で確認されます。

私もまだあまり詳しくないので、特定機能食品、医薬部外品なども程度の差はあれ、臨床試験をしていると思えます。

そんな臨床試験も

冬支度です。コロナも急激に減りました。ワクチンと感染予防のおかげですね。昨年は11月になって、窓を締め切って換気が悪くなり、移動があったのでどんどん増えましたよ。この1、2週間でどれだけ増えてくるのか、今後の感染の波が分かると思えます。来月のこの紙面が増えてる報告をしないで済みますよ...

そんな臨床試験も

そんな臨床試験も

そんな臨床試験も

たくさんいると情報が手に入りやすいので、和歌山の医療自体が向上します。ぜひ皆さんに臨床試験を勉強していただきたいと思えます。

そんな臨床試験も